

関宿祇園夏まつり

毎年7月下旬、関宿では「関宿祇園夏まつり」が二日間にわたって開催されます。この祭りの二つの目玉は、関神社の神輿の巡行と、町内の異なる地区から出される二階建ての山車4基の巡行です。

祭りは、数十人の町民が関神社から神輿を引いて東の追分や関地藏院など町の名所を巡行するところから始まります。最終的に神輿は町の西端にある御旅所という広場に到着し、そこに一夜置かれます。

一方、4基の山車はきれいに掃除され、刺繍が施された幕や色鮮やかな提灯で飾り付けられます。そして、「山車蔵（だしぐら）」と呼ばれる山車を保管する天井の高い特別な蔵から引き出され、町内を巡行します。二階建てになっている山車の下の階に座っている子どもたちが太鼓や笛を演奏し、上の階では男たちが山車の進行の指揮をとります。子どもたちがお囃子を担当することは、祭りへの思いが次の世代へと確実に受け継がれるようにする工夫の一つです。

山車が最初に向かうのは関神社です。そこで一回目の「舞台回し（山車の上部がぐるぐると回転される）」を行なった後、山車は町内を練り歩き、再び町の中心部の中町へ戻ります。ここでは提灯に火が灯され、暗闇の中で二回目の舞台回しが行われます。その後、山車はそれぞれの蔵に戻され、次の日を待ちます。

祭りの2日目には、神輿が御旅所から関神社に戻されます。山車は再び町内を練り歩いてから蔵に戻されますが、舞台回しは行われません。それが終わると、地元の山車保存会の人々は純粋に祭りを楽しむことに集中します。